

第6回ごみと水を考える集いからのアピール

本日、名古屋市稲永スポーツセンターに山、川、里、海で活動する市民団体・行政等36団体81人が参加して、第6回「ごみと水を考える集い」を開催しました。

私たちは、土岐川・庄内川源流の森委員会・村上事務局長の「森の健康診断の10年とその後」の記念報告に、森と向き合ってきた10年が確かな前進の局面を切り開いていることを確認しました。「名古屋港のごみの実態と取組」「名古屋商業高校の取組」「藤前干潟のヨシ原調査の報告」の3特別報告から、水環境を守るための営々とした取組があること、ヨシの活用に向けた商品開発の努力が払われていること、ヨシ原調査が多面的に取り組みられまた新たな一面を知ることができました。三つの分散会では、各団体の取組を交流すると共に、「漂着ごみの発生源を少なくすること」は出来ないかと有意義な話し合いをすることで、次の取組に対する認識を新たにすることができました。

6回の「集い」を通して、「ごみと水を考える」ネットワークづくりに賛同頂いた団体は59団体を数えるになりました。また、今回の集いの活動概要報告には、報告されたものだけで、1年間に企画・実行されている取組が、引き続き、ゆうに500企画を超え、毎月、毎週、各地で環境活動等が展開され、年間延べ参加者は15,000人を超えています。

2012年1月に「第1回ごみと水を考える集い」を開催し、7項目アピールを採択し、みんなで「答志島にごみ拾いに行こう」と確認したことを契機に「22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会」が結成されました。その後の5年間で、6回の奈佐の浜清掃活動と4回のエクスカーション活動を重ねてきました。今年の流域エクスカーションは、2回目の愛知県で藤前干潟エクスカーションを行います。

奈佐の浜プロジェクトの活動に参加した多くの団体が、自らのフィールドでの取組の大切さと、流域一体の清掃活動の強化と啓発活動が重要なことを再認識しました。

本日の「集いの報告」と「漂着物の発生源」の話し合いは、私たちが水の循環で繋がっていること。そして、上流から下流・海へと流れ着くゴミでも繋がっていて、伊勢・三河湾につながるすべての流域が一体となって清掃活動や啓発活動を行うことの大切さを再認識しました。各地の団体と人が繋がり・交流・連携を深めることもできました。

ゴミを捨てるのは人間ですが、捨てるのもまた人間です。人間だけがゴミを造り、ゴミを出して自然環境を痛めつけています。私たち人間の責任で「ゴミが生まれない社会創り」の実現をめざしましょう。

私たちは、呼びかけます。

- 子どもたちが安心して元気に遊べる水辺を取り戻しましょう。
- たくさんの生きものたちが生息する場を取り戻しましょう。
- ごみを見つけたら勇気を出して拾いましょう。
- ごみを捨てない大人と子どもをはぐくみましょう。
- ごみが生まれない社会を創りましょう。
- 山、川、里、海それぞれで活動する人どうしの繋がりをつくりましょう。
- 流域全体で人と自然が共生する環境を創りましょう。

2017年1月22日

第6回藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い参加者一同

<アピールを採択した第5回ごみと水を考える会参加の市民団体等>

IPG(産業廃棄物専門家委員会)、愛地クリーンプロジェクト、伊勢・三河湾流域ネットワーク、海守の会、一般財団法人みなと総合研究財団、(一社)ClearWaterProject、かすがい環境まちづくりパートナーシップ、公益社団法人名古屋清港会、庄内川アダプト「クローバー」、新川をよみがえらせる会、NPO法人地域の未来・志援センター、中部大学応用生物学部上野研究室、中部大学ボランティア・NPOセンター、土岐川・庄内川源流の森委員会、NPO法人土岐川・庄内川サポートセンター、土岐川・庄内川流域ネットワーク、NPO法人堀川まちネット、名古屋市立名古屋商業高校商品開発研究班、なごや舞祭衆、名古屋市稲永スポーツセンター、名古屋市港区南陽プラザ、22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会、藤前干潟クリーン大作戦実行委員会、NPO法人藤前干潟を守る会、三郷の川を美しくする会、矢田・庄内川をきれいにする会、四日市ウミガメ保存会

<アピールを採択した第5回ごみと水を考える会参加の行政・公的機関>

愛知県環境部、愛知県建設部、三重県環境生活部、名古屋市環境局、名古屋市緑政土木局、環境省中部地方環境事務所、環境省名古屋自然保護官事務所、国土交通省庄内川河川事務所、名古屋港管理組合